

平成30年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成果
- 2018(平成30)年10月26日、27日の2日間にわたり、専門家はもとより広く一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
 - ・小山田智寛（文化財情報資料部研究員）「文化財データベースの作成とその意義について」
 - ・水野裕史（筑波大学助教）「雪村周継と臨済宗幻住派—大雄山法雲寺を起点に一」
 - ・山梨絵美子（副所長）「裸婦に表わされた地域性—フジタ・常玉・陳澄波を例に」
 - ・呉孟晋（京都国立博物館主任研究員）「伝統を現代につなぐ：齊白石が描いた花鳥のかたち」
 - 外部からの聴講者は10月26日66名、27日68名の参加を得た。参加者からのアンケート結果では、10月26日の56名の回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ76.8%、10月27日の54名の回答者のうち「大変満足した」、「おおむね満足だった」を合わせ94.5%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小野真由美、安永拓世、米沢玲、橘川英規、小山田智寛、三島大暉、野城今日子（以上、文化財情報資料部）